

山形県連小会報

第157号

発行日 令和2年5月31日

発行者 山形県連合小学校長会

日高伸哉

山形市木の実町12-37

県教育会館(大手門パルズ)

県連小 第1回理事会報告

新型コロナ禍の中で「本質」を考える県連小に ～伝統を引き継ぎ、新たな息吹を～

日高伸哉会長あいさつ



今年度、会長に指名をいただきました、山形市立第四小学校の日高伸哉でございます。県連小会員の一人として、精一杯努めてまいります。

会員の皆様におかれましては、一般のコロナウイルス感染拡大防止にあたり、この難局を乗り越える様々な方策を思案し、ねばり強く取り組まれておられるものと存じます。

例年とは大きく違う中で新年度を迎え、今年度は、長期の臨時休業の中、そして、「新しい生活様式」を踏まえた暮らしの中での「県連小の諸活動」になります。このような状況にあたり、改めて県連小の機能とは何か、もっと詰めれば、県連小の各委員会の機能とは何か、大きく申せば、県連小の存在意義が問われていると思っております。

鈴木一尋前会長は、ご挨拶(4/16付「第1回県連小理事会」書面表決資料内)「力を合わせ今この危機を乗り越える」の中で、「校長は孤独だと言われるが、県連小のネットワークが心強さを担保してくれた」と結ばれておられます。

私は、この「ネットワーク」こそが、重要な機能ではないかと思えます。本来であれば、時と場を同じにして、膝を付き合わせて熟議をしたり、お一人おひとりの表情や仕草をも大切に感じながら熟考したりしていく過程に、より確かな判断が生まれるものだと思います。この度は、第74回県連小研究協議会田川大会を紙上開催することとし、一堂に会することは叶いませんが、「ネットワーク」をより強固に、より機能的にすることはできると思っております。是非、意をお汲み取りいただき、紙面を通してより活発なご議論を願います。全連小の新たな活動方針の中にも、「新型コロナ

ウイルス対応自体を研究対象とする」ことや「研究大会の在り方を検討する」ことが盛り込まれました。刻々変化する状況に対応してこそこの「今を生きる校長の連合体」です。

「山形県連合小学校長会」は、県内11地区において組織されている地区校長会の連合体です。会員一人ひとりの校長が、その職責をよりよく果たすことができることを目的とした組織です。山形県連合小学校長会会則の第3条に、次のように記されています。「本会は、県内各地区校長会及び各小学校長相互の連絡提携を密にし、教育の振興を図ることを目的とする。」最終的には、「教育の振興」に寄与することです。このコロナ禍の中で、本質を見出し、「できることとできないこと」を整理し、「目的達成のためには、どのようにすればよいのか」を熟考し、探究的に活動を推し進めていくことが、何より大切なことだと信じます。

鈴木前会長から県連小旗を引き継ぐにあたり、過日のNHK大河ドラマ「麒麟がくる」の第17回「長良川の対決」のワンシーンを思い出しました。県連小旗のシンボルマークの謂われは、円形をもって連合体を表し、山形県の「山」と小学校の「小」を主体にし、躍進する県連小を鳥のはばたきの姿にとり、限りなく前進する力を象徴したものであると言います。歴代の会長・会員皆さんが築かれた伝統を引き継ぎ、新たな息吹を吹き込めるよう、山形県内の小学校が心を寄せ合って、情報交換を行いながら、課題への対処法等を発信し、すべての学校が実り多い教育活動を実践できる体制づくりにご尽力を賜りますようお願い申し上げます。ご挨拶といたします。



新副会長あいさつ



ONE TEAM の精神で

田所 昭裕

新型コロナウイルス感染症対策のために臨時休校措置が取られて以来、学校を取り巻く状況は一変しました。新学習指導要領の全面実施を見すえて準備してきたつもりが、日々の対応に奔走する中で新年度を迎えることになりました。

私の所属する山形市小学校長会では、38名の会員の半数に当たる19名が入れ替わりました。子供たちとの出会いもないままに次々と緊急対応を求められ、不安と心細さを感じた会員も少なくなかったと思います。

このような時だからこそ、ONE TEAM（ワンチーム）の精神を大切にしたいと考えます。情報の共有と闊達な議論を通して校長としての見識を深めることが、的確な判断の拠り所となり、よりよい学校経営につながるはずです。自校に留まることなく「山形の子供たちを一丸となって育てる」気概を持ちたいものです。

新型コロナウイルスと向き合う日が続きます。「ピンチ」は「チャンス」、取組の意義を問い直しながら再構成していく絶好の機会です。受けて立とうではありませんか。日高伸哉会長を中心に、これまで以上に機動力を発揮して、必要な情報提供と政策提言を続けながら、新たな学校教育を共に模索する1年となるよう努めてまいります。どうぞよろしく願いいたします。



「現時点」を起点に、よりよい戦略に

工藤 幸吉

4月以降、コロナ感染症予防対策として「現時点では」という言葉を枕詞のように使いながら、苦渋の決断で教育計画を見直し、会議等も中止されたことと思います。その判断を力強く支えたのは、各地区校長会のネットワークではなかったでしょうか。

私は昨年度、県連小理事会に加えていただき、県内11地区小学校長会の特色ある取組から学んだことを北村山校長会、そして自校の学校経営に還元することができました。

第74回県連小研究協議会は残念ながら紙上開催となりましたが、田川地区小学校長会の皆様が総力を挙げて1年以上にわたって準備してくださった内容とその思いを、北村山地区主管の第75回研究協議会に確実に引き継いでいきます。現時点では地区実行委員会を開催できない状況ですが、これまで残していただいた財産を参考に、皆様の学校経営に資する協議会になるよう戦略を練ってまいります。

学校は学力を付ける場、共によりよく生きる人間関係を学ぶ場です。コロナ禍は確かに辛い状況ではありますが、これまで経験したことのない絶好の学びの場でもあります。実感として自分事のできる課題の種が豊富にあり、戦略的に資質・能力を育むチャンスです。日高伸哉会長を中心に、学校経営の戦略構想に資する県連小活動に寄与できるよう努力してまいります。どうぞよろしく願いいたします。

令和2年度 山形県連合小学校長会役員一覧

会長 日高 伸哉(山形四)	役名	理 事	対 策 委 員	生徒指導委員	研 修 委 員
	地区				
副会長 田所 昭裕(山形一) 工藤 幸吉(楯岡) 長谷部 薫(新庄) 山崎 公彦(興讓) 寺嶋 一郎(松原) 監事 佐藤 法子(上山南) 佐竹 康弘(白岩) 多勢 弘子(干布) 事務局長 大沼 篤	山形	田所 昭裕(山形一)	渡邊 裕美(山形十)	阿部 健一(本 沢)	佐藤 昌宏(みはらしの丘)
	上山	丹野 芳弘(上山)	高橋 徹(宮 川)	石原 敏行(西郷第一)	武田 直也(中 川)
	東村山	渡邊 齊(長 崎)	戸村 浩二(荒 谷)	熊澤 晃佳(山 口)	中田 敦(長 岡)
	西村山	石垣 伸介(谷地中部)	建部 敦(左 沢)	大泉 裕之(北谷地)	阿部 仁志(三 泉)
	北村山	工藤 幸吉(楯岡)	土屋 常義(大 森)	安食 秀一(玉 野)	樋口 良彦(高 崎)
	最上	長谷部 薫(新庄)	石川 周(明 安)	五十嵐 登(鮭 川)	小野 一郎(北 辰)
	米 沢	山崎 公彦(興讓)	太田 和広(関 根)	佐々木英明(南 部)	佐藤 哲(北 部)
	東置賜	山口 芳弘(沖 郷)	片倉 和之(大 塚)	半田 俊一(二井宿)	竹田 啓(小 松)
	西置賜	高橋 彰(鮎 貝)	佐々木友明(西 根)	菅原 透(荒 砥)	菊池 一栄(平 野)
	田 川	高野 勝彦(朝陽第二)	三部 信(櫛引南)	井上 東一(藤 島)	樋坂 聡(朝陽第四)
	鮑 海	寺嶋 一郎(松 原)	佐藤 寿尚(浜 田)	齋藤 太(広 野)	菅原 覚(高 瀬)
	担当理事			渡邊 齊(長 崎)	工藤 幸吉(楯岡)
	幹 事	幹事長 渡邊 和浩(東)	金子 孝宏(西山形)	櫻井 順一(山形二)	佐藤 昌彦(金 井)
		会計 佐藤 浩子(南山形)	佐藤 浩子(南山形)	樋口 潤一(山大附)	太田 千春(大曾根)



コロナ禍に思うこと

山崎 公彦

同じ景色でも、見る者の心の持ち方によって違うということを感じたことが何回かあります。東日本大震災が起きたとき、そして新型コロナウイルス感染症防止対策で外出自粛している今年もその一つです。それまで当たり前だとばかり思っていたことが当たり前ではないと思ひ知らされた時です。今年の桜は何かよそよしく感じられました。

昨日の情報が次の日には無意味化するような毎日です。次々と正解のない答えを出す判断が求められます。いつの日にかそれぞれの判断に対する評価がされる時が来るとは思いますが、今判断しないわけにはいきません。悩みに悩んで判断したことが悪い結果につながることもあります。心配すればきりがありません。不謹慎と思われることを承知で言えば、平穩ではないこのリアルにダイナミックな時に校長であることにやりがいを持つ。そんな感覚も必要かもしれません。また、努力をしたうえででなくようにしかならないという鈍感力も必要かもしれないと考えるこの頃です。

一人職としての校長同士が連携し、情報交換をしながらそれぞれの学校に応じた判断をする。そうした校長会としての機能の大切さが顕在化している現在です。連合体としての県連小がこうした役割を効果的に果たすことができるよう、会長を支え、微力ながら力を尽くしていく所存です。



さらなる連携を通して前進を

寺嶋 一郎

この度、副会長を拝命し、身の引き締まる思いをしております。山形県連合小学校長会の意義を確認しながら、日高会長のもと、精いっぱい務めさせていただきたいと思ひます。どうぞ、よろしくお願ひいたします。

さて、新型コロナウイルス感染症の影響によりまして手探りの学校運営が続いており、子どもたちの心身の健康の維持や学習機会の保障など不安がつきない状況にあります。

このような時だからこそ、我々校長は互いに一層連携を深め、様々な情報を共有して経営にかかわるよりよい判断に生かしていくことが肝要であると考えています。

飽海小学校長会では、今年度の重点の中に「学び合う」、「連携する」を掲げています。互いの経営や実践を開き合うとともに、支え合い、協働することを通して、課題を乗り越えていきたいと考えているところです。

山形県連合小学校長会は、11の地区校長会からなる連合体であります。この強みを大事にしながら、大いに学び合い、研鑽を積んでいきたいものだと考えています。

そのために微力ではありますが、力を尽くしていく所存であります。

県教育委員会のご指導

◆義務教育課 課長 小関 広明氏

- 1 少人数学級編制によるきめ細かな指導の充実
 - 小中学校における少人数学級編制等の推進
 - 喫緊の課題に対応する施策の実施
 - 教員の資質や指導技術の向上・強化
- 2 つけたい力を明確にした教科の本質に迫る授業による「確かな学力」の育成
 - 学力向上アクションプランを核にした強固なP D C Aサイクルの確立
 - 学力向上推進会議の設置と教科部会の開催
 - 学力向上支援チームによる市町村教育委員会と一体となった指導・助言
 - 山形県学力調査の実施、結果の分析による授業改善の促進
 - ICT教育推進拠点校による学習活動の充実
 - 実践的な英語力育成のための英語教育の推進
- 3 チーム学校による相談体制の充実強化
 - 専門知識を有する外部専門家等の配置
 - いじめ解決支援チームの設置
 - スクールソーシャルワーク・コーディネーターの派遣

◆教職員課 課長 那須 隆秀氏

- 1 学校における働き方改革の推進
 - 「山形県公立学校の働き方改革プラン」に沿った取組の推進
 - 人的支援の拡充（スクールサポートスタッフ、小学校専科教員等）
 - 業務削減の取組
 - 勤務時間管理の徹底
 - 時間外勤務 R2の具体目標20%減(→36時間)
- 2 信頼される学校づくり（服務規律の徹底）
 - 令和元年度の懲戒処分件数11件
 - 不祥事を繰り返さない！
 - 「飲酒運転」「わいせつ事案」「体罰」
 - ストレスへの対処方法に関する研修の実施
- 3 優秀な人材の確保・育成
 - 管理職に占める女性割合の現状
 - 管理職候補、ミドルリーダーの育成
 - 女性管理職の計画的な育成
- 4 人事管理上の諸課題について
- 5 年度始めの確認事項
- 6 職員の健康管理

理事研修会議

テーマ

「地域社会と連携した防災・安全教育」 について

趣旨説明

近年の気候変動により、地震や風水害などの自然災害が数多く発生している。各地域の特性や問題点、過去の被災経験を把握した上で、想定されるリスクを的確に捉えることが重要になっている。今後は、災害発生時に関わることが想定される行政、NPOや自主防災組織等と協力・連携を強めていく必要がある。

【各地区の実践事例から】

※山形地区の提供事例を基に、各地区から寄せられた実践事例を一部抜粋して記載しました。

【上山地区】

市危機管理室からの指導により、各学校の「土砂災害に関する避難確保計画」を作成するために、教頭を対象に講習会が行われ、具体的計画書を作成。市全体に係るハザードマップや避難計画を、各学校周辺の身近な範囲での具体的な避難方法に役立てるために有効な計画案となった。

【東村山地区】

非常時の児童の引き渡しについて、町教委が「保護者引き渡し基準」を作成し、年度始めに学校を通して保護者に通知。引き渡し訓練を実際に行うことで、いざという時には学校で預かることや引き渡しのための具体的な動きを確認することができている。

【西村山地区】

大規模災害時に保護者が児童を迎えに来ることができることを想定した「引き渡し訓練」を毎年実施。学校前の道路を一方通行にしたり、駐車場の入口から出口までの動線を明確にしたりすること、昇降口と教室でのダブルチェックで確実に児童を引き渡すことなどを重点として訓練している。

【北村山地区】

保護者への引き渡し訓練（大規模な自然災害、凶悪事件発生時の安全確保）を実施。事前に保護者にマニュアルを配布し、よりリアルな訓練にするため実施日の詳細を伝えず実施している。また、危機管理部署の協力を得て賞味期限が1年後に迫った非常食を、引き渡しの際に配付。防災への意識付けに効果があった。

【最上地区】

毎年保護者に「非常災害時における児童の登下校について」を配付し、台風や地震等の災害に対応できるようにしている。

【米沢地区】

昨年度の台風19号の際に市の要請を受けて避難所を開設して課題が多く明らかになり、市危機管理室の担当者と課題の検証と今後の手立てについて協議した。その結果、令和2年度出水期前に市当局における各避難所の担当者を複数人数決めることを確認。担当者と学校の連絡会を行うことも示された。

【東置賜地区】

防災の日（9月1日）を中心とした防災週間中に、山形県・南陽市合同総合防災訓練を実施。訓練時に学校施設の使用と訓練への参加協力を依頼されており、該当する小・中学校の児童生徒が地域住民とともに訓練に参加し、防災意識の向上に努めている。

【西置賜地区】

A地区では、2017年の浸水想定区域図の見直しを踏まえて、防災看板の付け替えを行った。まだ導入されていないB地区と協働し、両地区統一した「まるまちマップ」作りに取り組んだ。また、昨年10月の集中豪雨の際、最上川の氾濫が心配された時には、C中が実際の避難場所として開設され、約40人の地域住人が避難した。

【田川地区】

P T A研修会として保護者を対象に、研修会を実施。地震・津波被害の実態と避難・自主防災のあり方など。研修会后、地域の自治体と協力し、炊き出しの体験や避難所開設に向けた自家発電設備の使い方の講習会を実施。また、日本海沖地震の際の避難行動検証、避難所開設の課題検証を行っている。

【飽海地区】

地区の「自治会防災部」が中心となり地域総合防災訓練を実施。「見る訓練」から、「体験する参加型訓練」になっており、教室や体育館を養生テープで仕切り、実際に寝てみることで狭いことを体験。また、段ボールベッドを、中学生の支援のもとに小学生が組み立てたり、中学生が炊き出しを体験する様子を見たりする経験は、大変貴重だった。